

インターネット依存
ゲーム障害
リハビリテーションプログラム入院
ご案内



兵庫県立
ひょうごごころの医療センター



目的



学校や友人関係で傷つき、不登校やひきこもりの状態になり、生活リズムが乱れ、インターネットやゲームに依存する子どもたちが増えています。

ゲームやインターネットの使用によって、生活全体がうまくいかなくなっている子どもが集団生活や入院プログラムを通じて、生活リズムを取り戻し、適切にゲームやインターネットを出来るようになることを目指します。

対象



中学1年生から20歳未満までの子どもが対象です。インターネットやゲームの使用の問題を認め、自分の考えで入院を希望し決断できる必要があります。著しい自傷や他害行為、精神症状を認める場合にはお断りすることがあります。

当院の児童思春期精神科医師が外来で診察をした上でプログラム参加が可能か判断します。このプログラムは入院で行いますので通院治療での参加はできません。中学生は、原則、兵庫県上野ヶ原特別支援学校ひかりの森分教室への転校手続きが必要です。

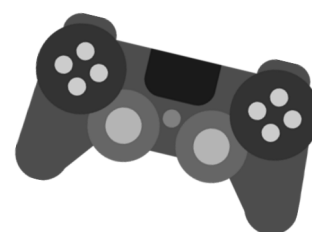
期間

参加希望者1名以上でプログラム実施します。

原則 1クール2ヶ月

場所

兵庫県立ひょうごこころの医療センター 東1病棟（思春期病棟）



治療内容

1. インターネット、ゲームの使用への介入

インターネット、ゲームの使用時間および使用方法について本人と多職種で話し合いを行います。退院後も適切な使用が続けられるように支援します。

2. インターネット依存、ゲーム障害プログラムへの参加

週に1回、専用プログラムを行います。

各回ごとにテーマを決めて、インターネットやゲームの使用のメリットとデメリットを振り返り、適正使用に向けて動機付けを行います。



3. 家族会

月に1回家族会を行います。

インターネットやゲームへの依存について、家族の困りごとや対応について話し合い、子どもたちへの関わり方を学びます。



4. 生活リズムの改善

入院生活では、規則正しい生活を送ることができます。

日中のプログラムへの参加や院内学級への登校（中学生）などを通して、生活リズムを改善します。



5. 病棟の集団プログラムへの参加

運動やストレッチ、作業療法など病棟の集団療法プログラムへの参加を通して、インターネットやゲーム以外の楽しみを見つけしていきます。



6. 同世代の仲間関係の傷つきからの回復

インターネットやゲームに依存している子どもたちの多くは、学校や友達関係の中で悩みや傷つきを抱えています。同年代の子どもと一緒に生活することで、関係づくりを行い、傷つきから回復します。



7. 不登校やひきこもりへの介入

インターネットやゲームに依存している子どもたちの多くは、不登校になり自宅にひきこもった生活を送っています。中学生は当院の分教室への登校を目指します。分教室では、少人数での授業で短時間からの登校を開始します。

高校生に対しては、在籍している高校と連携し、居場所になる機関を整え、ひきこもりからの改善を目指します。



8. 背景にある発達障害や精神疾患の評価と治療

インターネットやゲームに依存する子どもたちの中には、背景に、発達障害や精神疾患を認めることは少なくありません。これらの評価を行い、その子に合った対応や治療を検討します。

プログラム（例）

- ・親とのバトルパターンから学ぼう
- ・ゲーム・ネットの良い所
- ・ネットでつながる人との輪



費用

入院費用（健康保険が適用されます）とおやつや生活必需品やレクリエーションなどの費用をご負担いただきます。世帯の収入や健康保険の種類などによっては、費用は異なりますので、詳細は当院の地域医療連携部にお問い合わせください。

インターネット依存・ゲーム障害

リハビリテーションプログラム入院の申し込み手順

1. 地域医療連携部に電話してください。「インターネット依存・ゲーム障害リハビリテーションプログラム参加希望」とお伝えください。担当者から、電話でインターネットやゲームの使用状況などについてお聞きします。外来日を調整します。
2. 児童精神科医師による外来診察を受けて、病棟見学を行います。プログラムへの参加の意思を確認し、入院日を決定します。
3. 入院日に病院にお越しください。中学生には、入院後に上野ヶ原特別支援学校ひかりの森分教室への転校手続きを行っていただきます。

お問い合わせ

兵庫県立ひょうごこころの医療センター地域医療連携部
TEL 078-581-1013（代表）



兵庫県立病院看護師マスコット あいだん

